

バドミントン・関東大学春季リーグ戦 女子勝ち点2で3位 マッチ率で上回る



▲ 笑顔の女子部員たち

関東大学バドミントン春季リーグ戦が4月25日から5月4日まで、日体大健志台キャンパスで行われ、女子が3位に入った。初戦で青学大に敗れたが、2戦目の早大戦は4-1で快勝。悪い流れを断ち切ると、3戦目では法大に3-2と勝利を収めた。しかし、4戦目で昨秋の王者・日体大に、最終戦で筑波大に連敗し、2勝3敗の勝ち点2。早大、日体大と並んだが、マッチ率で上回った。福永彩主将(文4・昭真も)



優勝を決めた第5戦の早大戦。左端が北主将=拓大アーチェリー場
▲ 優勝を決めた第5戦の早大戦。左端が北主将=拓大アーチェリー場
200点以上の大差で勝利する好スタート。続く第2戦で拓大に敗れたものの、その後は安定した試合運びで3連勝。4勝1敗でリーグ戦を終えた。

北智天主将(経済4・高崎商大附高)は「全勝できなかったのが残念。相手にプレートを合わせすぎてしまったが、全試合を通して雰囲気よく戦うことができた。王座決定戦ではベスト4に入れるように頑張りたい」と意気込みを語った。

馬術・東都学生大会 団体総合で2位

東都学生馬術大会(4月10、12日、JRA馬事公苑)が開催され、専大は団体総合で2位となった。同大会は期間中に9競

技を実施。競技ごとに個人、団体の順位を競い、団体総合成績が決まる。複合障害飛越競技では齊藤景太(経営2・札幌光星高)・ゴールドスタ

一ノ号が個人4位、二川祥(商4・宝塚高)・エンドーペロー号が同5位と好成績を残し、団体2位を勝ち取った。二川・エンドーペロー

は複合馬場馬術競技で個人3位となり、団体3位に貢献した。東都トーナメントは準決勝で日大に敗れたが、準決勝の得点により3位となった。

主務の青柳創也(経済4・八幡中央高)は「昨年は、標準障害・複合障害・東都トーナメントの3種目で優勝したが、今年はすべて下回る結果となってしまい、とても悔

しい。個々の力をより引き出せるような練習を重点的に行い、次の大会に生かしたい」と語った。(高田沙季・文2)

真も) (宇佐美春那・文2) 写真) 5月26・27日(サンヒルスカントリークラブ) 5月28日(大和根力) 5月29日(大和根力) 5月30日(大和根力) 5月31日(大和根力)

アーチェリー・関東学生リーグ戦 男子Aブロックで優勝 全日本学生王座決定戦出場へ

関東学生アーチェリーリーグ戦(3月29日~4月26日、各大学アーチェリー場)の男子Aブロックで専大が優勝を果たした。この結果、6月20・21日に行われる全日本学生王座決定戦への出場を決めた。

初戦となった神大戦は200点以上の大差で勝利する好スタート。続く第2戦で拓大に敗れたものの、その後は安定した試合運びで3連勝。4勝1敗でリーグ戦を終えた。

北智天主将(経済4・高崎商大附高)は「全勝できなかったのが残念。相手にプレートを合わせすぎてしまったが、全試合を通して雰囲気よく戦うことができた。王座決定戦ではベスト4に入れるように頑張りたい」と意気込みを語った。

なお、Bブロックを制した日体大との優勝決定戦(5月10日、帝京大学アーチェリー場)は75点差で敗れ、総合優勝とはならなかった。(鷹野未佳・経営3)

専大は11位で大会を終えた。初戦で千葉大に圧勝。続く神大戦ではミスが目立ち苦しむもなんとか勝利し、ベスト16に入る。準々決勝の相手は強豪明大。堅いディフェンス

の前に開始5分間無得点と苦しいが、秋山熙(経営2・東海大浦安高)の3Pシュートなどで追い上げる。4点ビハインドで最終ピリオドになるが、田代直希(商4・東海大浦安高)の活躍で一時的に逆転に成功。しかし、残り26秒で再逆転を許し、73-74で敗れた。順位決定戦の1回戦は国士大に圧勝。続く白鷲大には惜しくも敗れたが、11位決定戦で関東学院大に勝利した。田代は「課題は調子の良いとき悪いときの差が

も個人3位となった。標準障害馬術競技では山本開智(経営2・つくば開成高)・ギャレストロ号が人馬一体の走り個人3位となり、団体3位に貢献した。東都トーナメントは準決勝で日大に敗れたが、準決勝の得点により3位となった。



▲ 次の大会でも活躍が期待される馬術部員たち

サッカー! 関東大学リーグ戦 第8節終え11位

関東大学サッカーリーグ戦(前期)は第8節を終え、専大は11位と苦しんでいる。4連覇中の専大にとってこの順位は寂しい。主力の多くが卒業し、周囲の期待は大きいものの、厳しいシーズンが予想されている。ふたを開けて

監督交代 (古谷昭平・文2) 【男子】 草野真二氏(昭49法)

5月16日(6月14日) 5月17日(6月14日) 5月18日(6月14日) 5月19日(6月14日) 5月20日(6月14日)



▲ 抜群の得点力で活躍した田代

専大は11位で大会を終えた。初戦で千葉大に圧勝。続く神大戦ではミスが目立ち苦しむもなんとか勝利し、ベスト16に入る。準々決勝の相手は強豪明大。堅いディフェンス

の前に開始5分間無得点と苦しいが、秋山熙(経営2・東海大浦安高)の3Pシュートなどで追い上げる。4点ビハインドで最終ピリオドになるが、田代直希(商4・東海大浦安高)の活躍で一時的に逆転に成功。しかし、残り26秒で再逆転を許し、73-74で敗れた。順位決定戦の1回戦は国士大に圧勝。続く白鷲大には惜しくも敗れたが、11位決定戦で関東学院大に勝利した。田代は「課題は調子の良いとき悪いときの差が

も個人3位となった。標準障害馬術競技では山本開智(経営2・つくば開成高)・ギャレストロ号が人馬一体の走り個人3位となり、団体3位に貢献した。東都トーナメントは準決勝で日大に敗れたが、準決勝の得点により3位となった。

真も) (宇佐美春那・文2) 写真) 5月26・27日(サンヒルスカントリークラブ) 5月28日(大和根力) 5月29日(大和根力) 5月30日(大和根力) 5月31日(大和根力)

攻撃の要、高橋拓也(経済4) 記録コーナー

アイヌホッケー部 関東大学選手権(4月11~29日、ダイドードリンコアイスアリーナ) 11位

アスリート部

アスリート部

アスリート部

アスリート部

アスリート部

